

令和元年度まちかどミーティング会議録

開催日 令和元年10月16日(水)

地区 勇払地区

会場 勇払総合福祉会館

<意見交換>

○司会 それでは、意見交換の時間に移ります。

この意見交換の時間は、あらかじめお配りをしております町内会からの要望に関する意見交換、また、本日、御参加の皆様との市政に関する意見交換を中心に、最大8時をめぐりに進めてまいりたいと思います。

意見交換を進めていく中で、町内全体にかかわらない個人的な要望ですとか苦情等につきましては、本日、市の担当者が多数来ておりますので、まちかどミーティング終了後に直接担当者のほうにおつなぎいたしますので、御了承ください。

また、発言の際には、挙手の上、マイクをお持ちいたします。お住まいの町名とお名前を述べてからお一人一点ずつ、簡潔に発言をお願いします。

それでは、市政に期待することとか日頃お気付きの点、御意見がある方は挙手をお願いいたします。どなたかいらっしゃいますでしょうか。

町内会からの要望に関する御質問等でも構いませんし、市政に関すること、市政に期待することでも構いません。いらっしゃいますでしょうか。

はい、一番後ろの男性の方。今、マイクをお持ちいたします。

◆市民 勇払に住んでいる■■■■といます。よろしく願いいたします。

数点あるんですけども、一つは勇払の一番大きな通り、道道になるんで、苫小牧市直接のことではないかもしれませんが、今現在、40年近い前にあそこの道路は区画整理によって整備されて、そのときに花壇が作られたんですけども、今、経年して花壇を管理する住民がいなくなったり、年いったりして、ひどい状態になっているところ、4年ほど前からその花壇を潰して、大体、舗装、アスファルトにしてくれています。これはこれでありがたいことなんですけれども、そのスピードがですね、1シーズン1年で200メートルあるかないか。そうしますとね、片側2キロ、往復4キロあるこの町、20年からかかる事業なんですよね。今現在、近々に管理する人がいないものでやってもらっている事業が、20年先でないとも全部終わらないというようなことでは、非常にのんびりし過ぎているし、私なんかはもう生きていないと思うんですけども、是非、これを道のほうに、土木現業所か室蘭開建か分かりませんが、強くプッシュしていただいて、少なくとも10年以内、あと五、六年ぐらいで何とかなりませんかというようなことが一つ希望でございます。

○司会 はい、ちょっと一点ずつ行きましょうか。とりあえず、一回ここで回答させていただきますので、ちょっとお待ちください。

◎道路維持課長 道路維持課の小西と申します。ふだんから道路のことに关していろいろ御要望いただいて、勇払地区の道路のこと、さまざまに、何なりいろいろなものを任せていただいております。この場を借りまして、まず、ありがとうございます。

今の道道のお話です。もともと始まる前に、道道が、歩道が悪いということで、北海道のほうで道道のほうを改修していきたいというお話を受けてですね、北海道のほうで今、改修しているという実情であります。今、言われたとおり、進むスピードがちょっと遅いということなのでですね、北海道のほうに地域からそういう要望があつて、もう少し早い時期に完成するような方向でやっていただきたいというふうに、市としても要望していきたいと思っておりますので、よろしくお願ひします。

○司会 この件はよろしいでしょうか。

◆市民 はい。まあ、要望ですから。

○司会 はい。分かりました。もし、ほかにいらっしゃったらちょっとお伺ひして、もし、いらっしゃらなければ、もう一回ということをお願いいたします。

そのほかにございますか。はい、前から三列目の、女性の方。

◆市民 九区の■■■■と申します。これも要望に入るかと思うんですけども、ごみ収集の件なんですけれども、今の勇払の場合、個人個人でごみを置いて、きれいになって、扱いは良くなったんですけども、ごみ収集の方がですね、ごみの収集の度に走らなければ収集できないような、時間がかかっているような感じなんです、見たときに。これから冬になっていくので、その人たちも走ってやらなくても、ちょっと、急ぎ足とかそういう形でね、収集できるような時間と工夫を市のほうのごみ処理場のセンターのほうでね、働き方の時間だとか、地域の広さでこういうことに時間かかるんだということをもうちよつと内容を詳しく調べましてね、働く方にもうちよつと楽な仕事をしていただきたい。見ているほうが何かすごくつらく感じるんですよ、毎日。毎度、きちっと走ってね、持っていつてもらうのはありがたいんですけどもね、その姿を見ると、もうちょっと楽な仕事の仕方があるんじゃないかなと感じるものですから、その辺を検討していただきたいなと思ひます。

○司会 はい。それでは、回答のほうをお願いいたします。

◎ゼロごみ推進課長 苫小牧市環境衛生部ゼロごみ推進課の倉持と申します。日頃よりごみの分別とリサイクルの推進に御協力いただきまして、この場を借りてお礼を申し上げます。

今、お話がありました、戸別収集の収集作業員が走って作業をしているという件についてでございます。たしか、これは去年のまちかどミーティングの中でも何度か取り上げられてきた話だというふうに私のほうでは認識しております。それで、今、全市的に戸別収集をどうするかということを経長のほうからも言われて、我々としてもどのような改善ができるのかという部分については取り組んでいるというのが今の現状です。

それで、ごみ収集の作業員の方が走っているというのも認識している中で、どういったような形で作業が楽になるのか、それから、かつ、お金をかけないような形にするにはどういったふうにしなればいけないか。あと、それから戸別収集を勇払地区ではやって、皆さんの御協力ですら

せていただいてもらっているんですけども、もしかしたらこの形というのがもっといいようなやり方があるんじゃないのかという部分については、我々も今、考えさせていただいている。その中で、いろいろな団体さんと協力して、作業員の方が走らなくてもいいような状況。まあ、作業自体は、年々、慣れてきているということもあって、今は昔に比べて、走っているというのも少しずつではあるけれども減ってきてはいると思うんですけども、我々のほうでもちょっと、抜本的にですね、これをどういうふうにしたらいいかというのを考えている最中でございます。ちょっと今の時点では、その経過をまだ見守っていただきたい。ただ、我々としても、今のままでいいとは決して思っておりませんので、ちょっとその部分については、御理解いただきたいというふうに思います。ちょっと回答にきちとなっていないかもしれないですけども、申し訳ございません。

○司会 それでは、そのほかにございますか。

もし、いらっしゃらなければ、先ほどの[]さんなんですが、はい。

◆市民 勇払の[]です。今、[]さんからの関連なんですが、市の担当者のほうからも御答弁ありましたけれども、ちょっと抜本的にお聞きをしておきたいのですが、委託されている収集業者のエリアというのがあると思うのですが、私も家の前のごみの収集をしていただいている一人として、隣から隣まで、今、走られているんですね。冬場もやはり走られるんですよ。それで、安全面を含めて危惧しています。どこかの時点で市の担当者の方に、委託業者の方へお話をしてもらわないとならないなと思っていたのですが、これはエリアの回収が委託業者として時間内に回収が行き届かないから職員のかたに駆け足程度で収集をするようにということになっているのか、この辺をちょっとお聞きしておきたいのですが。時間内に収集可能であれば、やはり、もっと楽に収集してもらえるとと思うのですが、その辺の関連をお聞きしたいと思います。以上です。

○司会 ありがとうございます。それではよろしくお願いします。

◎ゼロごみ推進課長 すみません。先ほどに引き続きまして、御質問ありがとうございます。まずですね、時間内にごみの収集ができるのかどうかということなんですけれども、曜日によって出すごみが違ってきています。それで、やっぱり燃えるごみの日というのが一番量も多くて、なかなか収集時間がかかるというような形になっています。

あと、もう一つ、ちょっと先ほどの御質問にも関係してくるんですけども、基本的には戸別収集というのは、玄関先というよりも道路のすぐ近くの敷地内に置いておいてくださいというような約束だったと思います。これが、時間がたつにつれて、置き場所が、やっぱり皆さん、玄関の近くのほうが出しやすいくというようなこともあったりして、変わってきたりしている部分も少しあるかと思うんですよ。そういったようなことも、業者さんのほうからの報告を受けています。

あと、それ以外にも、ごみのポリバケツのようなものに基本的には出していただいていると思うんですけども、そこの中に、中身が入っているかどうか分かるような手だてがあれば、入っていないのであれば作業が短縮できると思いますので、ちょっと、そういったようなことも少しずつ、先ほどの答弁と重なってしまうんですけども、我々、改善をしていって、それで結果的にはごみ収集の効率を図っていきたいというようなことを、今、業者さんとも話をしている、そ

ういった最中でございます。

それで、先ほども申し上げましたように、例えば燃やせるごみの日とそれから不燃ごみの日と、やっぱり全体的にごみの量が全然違いますので、その部分で燃やせるごみの日は走っている人が多いようなところは、ちょっと御指摘のとおりというふうな形です。以上です。

○司会 よろしいでしょうか。ありがとうございます。

それでは、そのほかにいらっしゃいますか。

はい。一番前の男性の方。今、マイクをお持ちします。

◆市民 勇弘の■■■■と申します。私は民生委員児童委員をやっていますので、ちょっとそういう立場から一言ちょっと。

自治会のほうから出ている要望番号3番の大型トラックの通行についてということで、これは数年前から出ているような項目だと思うのですが、この中の取組状況等の中でですね、現状、それから、近年、どう、勇弘の交通状況が実際どうなっているかという実態調査をされているのか。私は違う道路ですけども、死亡事故があったり、勇弘地区でも起きておりますのでね、何かあっては大変だと思いますので。私が見る限りでは、そんなにトラックの量も減っていない感じもするところもちょっとありまして、スピードも結構出ています。ですから、要望だけに終わらず、要望もやっぱり成果として出るような行動をとっていただきたいというふうに思うのですが、その辺どうでしょうか。

○司会 具体的な調査等を行っているか、まあ、実際に出された要望の実現に向けてというところかと思えます。それでは回答のほうをお願いいたします。

◎安全安心生活課長 交通安全を担当しております市民生活部安全安心生活課の小泉と申します。よろしくをお願いいたします。

一つは、昨年もこのような、皆様から要望いただきまして、トラック協会さんに対しまして要請というものを行っております。ただ、今年度も同様に要望いただいておりますことからですね、一つはですね、今年度、また、要請というものをトラック協会さんのほうに届けて、続けてまいりたいと思っております。

先ほどおっしゃいました、実態としてどうなんだということにつきましては、市としての実態調査というものはできていないところですけども、関係機関であります港管理組合さんですとか警察なんかも含めて、今後、どういった対策ができるかどうかというところも含めて、関係機関と協議してまいりたいと考えておりますので、よろしくお願ひしたいと思えます。以上です。

○司会 よろしいでしょうか。はい。

それでは、そのほかにいかがですか。

はい。一番前の男性の方。お願いいたします。

◆市民 勇弘の■■■■です。要望で、投げてある場所の、角々で投げてあるものをね、どういうふうにしたら持っていつてもらえるかなと思って、ちょっと先日、9月頃だね、沼ノ端センターに電話したら、地主がいなくて持っていかれないと。それと、持って行くのには無料では絶対できないということだったんです。だから、こういうごみが何年もそこにたまっているのをどうやったら

整理してもらえるのかどうか。どうしても駄目なら、どこかに変えろとか、その辺のところをちょっとお願いしたいなと思いました。

先日の、10月の初め頃に、そこのごみステーションのそばにいっぱい物があつたんですけど、それが、ごみステーションがなくなって、今、一個一個のアパートにね、ごみ処理の新しいのが付いて、そこにあつた椅子、でかい椅子ですね、それは整理してありました。だけれども、自転車なんかはそのまもあるんです。だから、そのときに一緒に持って行ってくればよかつたのかなと思つたんですけど、そういうものってやっぱり勝手には持っていけないのです、何年もたつても。そんなところをちょっとお聞きしたいんです。よろしくお願いします。

◎ゼロごみ推進課副主幹 ゼロごみ推進課の瀧上と申します。どうぞよろしくお願いします。

先月の初め頃だつたと思いますけれども、■■■■さんからお電話をいただきまして、不法投棄があるということで、うちのほうで担当の者が調査をいたしました。その現地を確認したところ、ごみステーションの横にソファが1個、それとその空き地のところに自転車2台とタイヤが2本投げてありました。ごみステーションの横のソファにつきましては、私どものほうで回収をそのときにいたしまして、登記者が分からないということで回収したんですけども、自転車2台については、そのうちの1台については防犯登録のシールが張つてありましたので、警察に照会をかけました。でも、所有者が不明ということで、登記者が分からない。それと、タイヤについても登記者が分からないということで、この場合、不法投棄の場合、土地の登記者が分からなければ、土地の所有者が処理をするということになります。そこで、所有者を調べまして、厚真町の会社の持ち物でしたので、そこに処理の依頼をしてですね、連絡はしてあります。今、ちょっと、きょうも見てきたんですけども、まだ、自転車についてはそこにあるという状態になっています。それと、ごみステーションにつきましては、今までそのアパートが、アパートの方が使われていて、設置場所がアパートの道路を挟んで向かい側にあつたものですから、ごみが投げられやすいということで、アパートのオーナーさんに相談をしまして、アパートの敷地内に付けるということで、現在、アパート専用のごみステーションを設置しているという状況です。以上でございます。

○司会 よろしいですか。はい。

それでは、そのほかにございますか。

それでは、前のかた、お願いいたします。

◆市民 勇弘の■■■■です。2件目ですね。すみませんけれども、ないようなので、私から意見を。下水処理場の汚泥の悪臭と言いますか、これについては、風向きによって非常に臭いときがあります。これは、昨年、乾燥装置が壊れて、その後も修理ができないということで、現在はどこかへ運搬して処理されていると思うんですけども、このままずっとこういう状態でほかの施設で乾燥処分をしていくのか。ということは、運搬するときに、パワーシャベルか何かでやると思うんですけども、トラックに移すときに非常ににおいが発生するんですね。これの対策をどう考えているのか、お願いしたいと思います。

○司会 下水の汚泥の処理とににおいの関係ということで、少々お待ちください。

それではお願いします。

◎下水道計画課長 下水道計画課の三國谷と申します。よろしく申し上げます。今、ちょっとお話、伺ったんですけども、勇払の下水処理センターで汚泥処理というのは、直接はちょっとやっておりませんで、西町の下水処理センターのほうにバキューム車のほうで回収をしまして、送っていると、運んでいるというような状況です。今のお話、ちょっともう少し詳しく、ちょっと後ほど伺わせていただきまして、ちょっとどういう状況なのかというところをもう少し、ちょっと、すみません、具体的に後ほどお聞かせいただいでですね、お答えしたいなというふうに思いますので、よろしくお願いいいたします。

○司会 それでは、ちょっと後ほどお話をお聞かせいただきますので、よろしくお願ひしたいと思ひます。

それでは、そのほかにいらっしゃいますか。

よろしいですか。そうしたら、もしあればお願ひいたします。

◆市民 はい、すみません。先ほどの■■■■と申します。2点目、本当は三つあったんですけども、2点目はですね、勇払マリーナについてのお話というか、要望なんです。

20年ほど前、苫小牧の肝入りで出来上がった勇払の活性化を目指してのマリーナ建設だったんですけども、御承知のとおり、建設中に埋めたケーソンが予想以上の高波でずれたということで、急ぎよ、前のほうに消波ブロックをぼんぼん投げ入れて、それを防いだと。それ以上動かないように。結果、地域に人が集まるのに必要だった釣り場、それが、その釣りができなくなった状態で、この20年間来ております。もう一方、ボートの係留とか、そういったほうは順調に来ておりますので、半分は目的は達せられているんですけども、肝心の勇払の町に人々が集まるような仕掛けというのは全くないまま、私に言わせれば室の持ち腐れのような形でもって、この20年経過しております。

是非ですね、直接管理するのは、港管理組合さんのほうだと思っておりますけれども、釣り場の設置。随分、お金がかかることだとは思っておりますけれども、何とかしていただきたいと思うのと。それから、それ以外にも、まあ、地域からの要望事項で、勇払マリーナの親水空間の活用という要望も載っていますけれども、それに対する取組状況等、そして、反映区分はCということで、今現在、全然、望めるものになっていないような気がいたします。是非、マリーナの活用法を考えて、そして、港管理組合さんと一体になって強力に進めていただきたい、そういうふうに思っておりますので、よろしくお願ひいたします。

○司会 はい。それでは、まず、勇払マリーナの釣り場をというお話をいただきました。その件に関して、よろしくお願ひいたします。

◎港湾・企業振興課長 皆様、おぼんでございます。市役所で港湾・企業振興を担当しております力山と申します。よろしくお願ひいたします。

今、貴重な、■■■■さんのほうから勇払マリーナの活用ということで、御意見を頂戴しました。ありがとうございます。勇払マリーナにつきましては、今、苫小牧港管理組合のほうで本年策定いたしました苫小牧港の長期構想というものがございます。この長期構想につきましては、今後

20年、30年先の苫小牧港のあるべき姿といったものを計画として盛り込んだところでございますけれども、その中で、この勇払マリーナにつきましては、今後、皆さんも親しめる親水空間づくり、そして、にぎわいづくりの創出の拠点ということで位置付けられてございます。

ただ、皆様、御承知のように、こういった港湾整備には多大なコストもかかってまいりますことから、今すぐというお話ではないんですけれども、今後の構想としてですね、今、■■■■様がおっしゃられた釣り場の整備でございますとか、はたまたオートキャンプ場の整備といったこともこの長期構想の中で盛り込まれておりますので、今後、私どももいたしましても、この港湾整備を所管しております苫小牧港管理組合のほうともしっかりと連携して、この勇払地区へのにぎわいづくりといったものに尽力してまいりたいと考えておりますので、御理解のほどをよろしくお願いいたします。

○司会 はい。よろしいでしょうか。

◆市民 勇払はかつて、ピークは5,800人ほど人口があったんです。今、1,900人です。三分の一。本当にね、今、またここにいらっしゃる方もいますけれども、日本製紙さんの問題もありますし、ますます勇払の人口減が加速度的に早まっていくというのが目に見えている状態でございますので、このマリーナにつきましても、20年後、30年後と言わず、本当に近々の対象とすべき問題として取り組んでいただきたいと強く要望いたしますのでございます。

○司会 はい、ありがとうございます。それでは、要望としてお聞きいたしたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

それでは、そのほかにもございますでしょうか。

いらっしゃるようですので、もう一点ということでお願いいたします。

◆市民 すみません。たびたび、■■■■です。

おととしからですね、苫小牧の教育委員会が直接取り組んでおりますコミュニティ・スクール制度。で、勇払はそのモデル地区として指定されて2年ほど前から活動しております。私もそれに携わる一人として、以来、地域、このコミュニティ・スクールは、私の理解するところでは、小学校中学校一貫教育、それに地域が関わって、子供たちの育成、それをよくしていこうというようなことだと思っておりますけれども、私たちが関わっているものとしても、地域の関わることですから、地域に対してこのコミュニティ・スクールなるものが勇払地区にあって、みんなで取り組んでいきたいと思いますということ動いていますということPRはするんですけども、なかなか浸透してっていないのが今、現実、感じております。是非、この機会にですね、苫小牧市教育委員会の方に、このコミュニティ・スクールなるものの目的とか、そういったものを皆様の前でお話ししていただければ、PRの輪が広がるのかなというふうに思いますので、ひとつよろしくお願いをいたします。

○司会 コミュニティ・スクールをもっとPRする場を設けていただきたい、いろいろしていく必要があるということですね。きょうは、教育の方が見えておりませんので、きょう、お話があったことをですね、私のほうからお伝えをして、対応をしていきたいと思っておりますので、きょうのところはですね、ちょっと御回答できないんですけれども、よろしくお願いをいたします。

それでは、そのほかにございますでしょうか。

はい、前から2列目の女性の方。

◆市民 勇弘の[]です。診療所がなくなるということが、ことしの12月なくなるというのが決まっているんですけども、こちらの要望のほうにももちろん出ているんですが、現実には、やはり、年齢が行きますと、車、免許も返上したり。そうなるとバスとかタクシー、JRという形になると思うんですね。要望的には、夜間のちょっと週何回かでもどうですかというような要望が出ているんですが、そういうものの、本当に現実的なお話が今、私どもはもう今年いっぱいという形が、もう、身に迫っているものですから、もう少し本当に現実的な、お医者様不足ももちろんあるとは思いますが、考えていただいているのかなというところをちょっとお聞きしたいなと思いました。

○司会 分かりました。診療所の閉鎖に伴う、まあ、今後の心配事ということですね。公共交通も含めてということですね。

◆市民 交通もだし、やはり、勇弘に夜でも来てくれたら助かるかなという。

○司会 なるほど、夜、そういう状況になったときが、不安があるということですね。

◆市民 はい、毎日は無理にしても。

○司会 公共交通の観点もございますし、まあ、診療所が閉鎖ということも関連がございますので、担当するほうからちょっと併せてお答えしたいと思います。

◎健康子ども部長 地域医療を担当しております健康子ども部長の桜田と申します。

勇弘診療所は、皆様にとって本当に身近な地域の医療機関であるかというふうに考えております。本年12月で閉鎖ということをお聞きしております。御要望の中にも回答として書かせていただきましたけれども、どの地域、どの方も、やはり、夜間のことは心配であるというふうに考えております。

苫小牧市としましては、旭町に、市役所の近くですけれども、市の全体を一つの地域として夜間・休日急病センターを開設しております。ここのお医者さんを確保するのも、とても、今も大変な状況でやっております。医師会の先生方にも、このところは7時から次の翌朝の、朝の7時まで12時間ですね、開設をしているわけですけれども、7時から夜の10時までは、医師会の先生方も出ただいて、二人の先生で診ていただくような、そういう体制をとっております。

ただ、医師を確保するのも本当に大変な状況ですので、苫小牧市だけではなく、大学から、札幌から来ていただいたり、中には、本州から来ていただいたり、本当にいろいろ苦勞しながら、指定機関である保健センターのほうには、医師会のほうを含めて御協力いただきながら開設をしているところです。本当に、夜間の診療機関があればというお気持ちはとてもとてもよく分かるところでございますけれども、市として行っている、この夜間・休日急病センターを、是非、夜間については御活用いただければというふうに考えております。よろしく願いいたします。

◎まちづくり推進課長 まちづくり推進課の小山内と申します。公共交通の観点の今の御質問に対して御回答させていただきます。事前要望の回答につきましては、そういった形で、今現在のバスの本数ですとかJRの本数ですとか、そういったことも書かさせていただいたりとかしているんで

すが、今の公共交通、特にバスの関係で最も深刻な課題が一つございまして、それが、運転手の不足ということがございます。バスの増便をしてほしいというような御要望につきましては、勇払エリアのみならず、いろいろな地域からもいろいろな御要望を今、いただいているのですが、限られたバスの運転手さんのやりくりの中で今のバスの運行が行われておりますので、実際のところ増便ということは非常に難しいというふうに判断せざるを得ないというふうに考えています。ただ、今、勇払診療所を利用されている方々が、今後、例えば他の、例えば沼ノ端ですとかそういった地域へのバスを活用しての通院といったことも考えられますので、今、もう勇払診療所のほうとはですね、いろいろ、利用者についてのちょっと協議とかをさせていただいていますけれども、今後につきましては、今、勇払診療所を利用している方々に対してアンケートをするだとか、まあ、利用意向調査をするだとか、そういったことも踏まえながらですね、例えば使いやすい時間帯に調整するだとか、そういったような例えば対応しながら、今後についてはなるべく利用しやすいような公共交通に努めていきたいというふうに考えておりますので、どうか御理解をお願いしたいと思います。

○司会 はい、よろしいですか。はい。

それでは、一番前の男性の方。

◆市民 勇払自治会の■■■■です。今の■■■■さんのお話に関連してなんですが、ちょっと市側の答えとしては、ちょっと私、非常に不満なんですね。というのはですね、市にお願いしたいのは、例えば最近、非常に技術も発達しているものですから、設備の点が大変なのかも分からないんですけども、例えば市が医療設備をある程度のものをそろえて、そして、民間の機関、例えば沼ノ端にある医院だとか、そういうところの先生といいますか、病院にお願いをして、週に二、三回来てもらえないかというぐらいのことも考えてくれたのかどうか。そういうことなんですね。ただ、医者がないからできませんじゃなくて、どうしたら勇払に医療機関を置くことができるかということを真剣に考えてくれているのかということなんです。そういうことをちょっと、もう一回。例えば市内の東部地区のほうの医療機関に市が設備を準備すれば、週二、三回見に行くことができるかということと、問い合わせしてくれるようなことだとか、そういうことまでも考えていただきたいなというふうに思うわけです。

○司会 ありがとうございます。それでは、回答をお願いいたします。

◎健康こども部長 先ほど、夜間の診療ということで御要望がありましたので、お答えさせていただきました。ただ今の御要望というか、御意見につきましては、これまでもこの勇払地区に関しましては、診療所があったということは存じておりますけれども、沼ノ端までバスで15分という区間の中で、その地域で診療所を市が開設をしていくということが可能なのかどうかということも含めまして、そこは少し検討させていただきたいというふうに思いますけれども、とてもとてもそこは難しい、非常に困難なことであるというふうには考えますけれども、いろいろな状況を含めまして少し検討させていただきたいというふうに考えます。

○司会 よろしいでしょうか。はい。

それでは、そのほかにごございますか。

大体、よろしいでしょうか。なければですね、こちらのほうで意見交換の時間を終了したいと思いますが、よろしいですか。はい。それでは、こちらのほうで意見交換を終了させていただきます。

終了に当たりまして、市長から御挨拶を申し上げます。

◎市長 約10点ぐらい、幅広い問題で御質問、御意見をいただきまして、ありがとうございました。

すぐできることについてはですね、すぐ対応させていただくことになりますけれども、なかなか時間がかかるような問題もあります。特にきょう印象的だったのは、大型トラックの問題は、これも八、九年前から常にですね、まちかどミーティングその他でもいろいろ指摘を言われています。なかなかそれが改善しない。市のほうはトラック協会に要請している。しかし、なかなかそれがそれぞれに伝わらない。トラック協会としては各社にそういうことは言っているわけではあります。なかなかそれが実行できていないという実態がずっと続いているわけでありまして。これは大型トラックですから、家の中にもがたがた揺れると。あるいは、歩行者も危ない目に遭った方もいるというような話も、ずっと伺っております。さりとて、うちのほうで規制というか、具体的に規制をかけるのも、今の法律下でなかなか難しい。何かやっぱり知恵を使って、業者さんに対して要請をしていくということが改めて考えていかなければいかんと思いつつながら。道路ができて少し緩和するのではないかなというのが当初はあったんですが、なかなか道路ができて緩和できていないという実態については、もう少し市のほうでも、どういう実態があるのか。当初、空コンのトラックが多かったわけですが、そういう状況、この八、九年の間にどう変化しているのかということについて、もう少し調べなきゃいかんというふうに思っています。

あるいは、診療所の問題もですね、住んでいる皆さんにとっては、やはり、これからの不安ということは非常によく分かります。どうにかして、そんな大きい診療所ではなくても、対応できる方法はないか、医師会とも相談しながら考えていかなければいけないわけですが、なかなか病院さんもですね、開業医もそれぞれ苦労しながらやっている最中でありまして。特に沼ノ端地区の病院は新しい病院が多いので、やはり、経営が安定するまで、一定期間、やっぱり時間がかかるという状況もあって、なかなか余裕がある開業医さんもそんなに多くはないという中で、どういう方法があるのかということについてですね、今、そして、これからに対して不安ができるだけ、そういう不安をなくすることはできなくても、不安を少しでも軽くする方法はないかということについて考えていかなきゃいかんというふうに思いつつながら聞かせていただきました。何しろ、不安があるというのは非常によく分かります。

それで、今まで植苗とか樽前とかさまざまの手だてをしてきました。しかし、どうしても、本当に申しわけないんですが、勇払はやっぱり航路下でさまざまな優遇措置もあった経過があって、少し考え直さなきゃいかんという問題と、やはり、日本製紙さんの問題は、正直言って想定外でございました。そういう想定外の問題も踏まえまして、この地域の皆さん、特に若い子供たちがこの地域に何か将来、ここで頑張っていきたいと思えるようなことをみんなで考えて作っていく必要があるのではないかなというようなことも含めて。先般、議会でも勇払の問題について、随分、議員さんから指摘がありました。ですから、マリーナの問題も、きょう、市議が来ていま

すから、この次の議会でやるのかもしれませんが。

あの、そういった形ですね、これは港湾局も非常に今、変化しています。例えば苫小牧に漁港区とありますが、国土交通省所管の港湾で、漁港区というのは今まで使えなかったんです。作業船船だまりと言っていました。それが2年前から漁港区という。それから、釣りの問題もそうなんです、今までとんでもないと言っていたのが、しかし、実際には釣りをしている人がいるんです、岸壁で。それを駄目だと言いながら目をつぶっている。中には亡くなった方もいらっしゃる。親水空間とかウォーターフロントという考え方が、ようやくこの四、五年前から日本でも本格的に考えていかなきゃいかんという、港湾局の考え方の変遷がありますので、随分、今までとは違った対応になりつつあるということを我々も感じますので、どんなことができるのか、多額の投資が必要なものは、これはなかなか時間がかかると思いますがけれども、段階的に、そういう親水空間としてもいろいろな、釣りも含めて人が集うような、何かないか、みんなで知恵を出して考えていかなきゃいかんというふうに思いながら、この勇払の問題、本当に先日の議会は六、七人、議員の方が勇払の問題を提議されて質疑がありました。是非、そういう形ですね、議会もそうですし、こういう場もそうですので、是非、皆さんからの意見、地元の声、意見というものをこれからも伝えていただきたいというふうに思います。できることはやりますし、できないことは時間かかることもあります。しかし、諦めずにチャレンジを続けることが重要じゃないかなというふうに思っています。

結びになりますけれども、最後までお付き合いいただきましたこと、心から御礼を申し上げます。御挨拶に代えさせていただきます。ありがとうございました。

○司会 以上をもちまして、まちかどミーティングを終了いたします。本日はありがとうございました。